

下田まち遺産  
ギャラリー

## ウミガメの来る海

多々戸浜、入田浜など、下田の海岸で生まれたアカウミガメの子どもたち。黒潮に乗り、2年くらいかかって、1万キロも離れたアメリカの西海岸にたどり着きます。そこで20年くらいかかって大人のカメになると、誰に教わることなく、また1万キロの旅をして、下田の海岸に戻ってきて新しい命を産むのです。そんなウミガメさんが、いつまでも生きていける、静かで、きれいな海でありますように。



文・絵：鈴木まもる

## 編集後記

### 田牛の獅子舞を調べてわかった伊勢町と小稲の虎舞の関係性

今回、参考資料とした「静岡県文化財調査報告書第61集、国記録選択無形民俗文化財調査報告書、小稲の虎舞（静岡県教育委員会：編）」に、南伊豆、小稲地区の虎舞は、下田市の旧町内、伊勢町で行われていた虎舞が伝わったもの、とありました。

大相撲の行事で二番目の位である式守伊之助の初代は南伊豆町小稲の出身です。また、彼には式守国八という下田出身の弟子がいました。その縁から伊勢町の虎舞が小稲に伝わったのではないかとあります。そして、岩手県の山田町など東北地方、神奈川県の浦賀で行われている虎舞も伊勢町の虎舞に源流を見ることができるのではないかと書かれており、やはり下田は人々の往来が盛んで、海上交通の要衝であったことがこの交流からも見て取れると思います。残念ながら、この報告書に納められている田牛の祭典調査や、地元の方との聞き取りでも獅子舞、おっぴいしゃりの起源は分かりませんでした。

祭事には格式があり、しっかりとした文献があるように感じますが、地名などと同様に由来や起源が不明なことがたくさんあります。ただし、田牛の方々とお話を聞き、交流を重ねるうち、由来や起源、格式よりも大事な、「心意気」というものは当初から変わらず受け継がれていっているのだろうと感じました。

下田の人が大切にしてきたもの、それが下田まち遺産です。

下田市建設課 下田まち遺産担当 西川 力



田牛の若衆頭の菊池さん(右)に話を聞く編集者(左)

『下田まち遺産手帖』は下田市景観計画・下田市景観まちづくり条例に基づき作成されています。

下田まち遺産手帖 第15号 2018年9月7日発行

発行元：下田市建設課 協力：下田市景観まちづくり市民会議

問合せ：静岡県下田市東本郷一丁目5番18号 TEL.0558-22-2219 FAX.0558-27-1007 mail kensetsu@city.shimoda.lg.jp

本誌のデータは2018年9月7日現在の情報です。

下田まち遺産 公式ホームページ → <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp>



下田まち遺産

下田まち遺産の情報をご覧になりたい方は、下田市役所公式ホームページ内にある下田まち遺産ページにアクセスしてください。写真と共に詳しい説明が掲載されています。